

## 割れ窓を許さない

いわき市立平第一小学校六年 湊 一真

ぼくの登校班には、毎朝、地区の見守り隊の方が集合場所に来てくれて、集団登校を見守ってくれます。それだけではなく、登校班のみんなの様子を気にしてくれていて、元気がない子、眠そうな子などには特に声をかけてくれます。ぼくは、野球のスポーツ少年団に入っていますが、週末の練習や試合で疲れているときには、見守り隊の方への朝のあいさつがおろそかになってしまうときがあります。そんなときは「眠そうだな。大丈夫か。」などと声をかけてくれます。見守り隊の方は平日だけではなく、週末に行われる学校行事の時にも見守りをしてくれます。小学校に入学してから、当たり前のことのように感じていますが、両親はとてもありがたい活動だと言っています。

父は、ぼくに「割れ窓理論」という理論があるということをお教えました。割れた建物の窓を放置していると「誰もこの地域に関心を払っていない。」というサインになり、犯罪を起こしやすい環境を作り出すという考えだそうです。そのため父は、地域でいっせい清掃をしたり、のびた草を切ったりして、地域をきれいに保つことは、犯罪や非行のない安全な生活には必要なことだと言っています。

ぼくは、父の話聞いて、見守り隊の方の活動もぼくたち小学生の安全な登校を見守ってくれるだけでなく、地域に関心を払っている人がいることを示す意味でも役立っているのだと思いました。

新聞かテレビで、毎日のように犯罪のニュースが報道されています。幸いぼくの身の回りでは、このような犯罪が起きたということは聞きませんが、それは見守り隊の方をはじめ、地域の人たちが地域に関心をもち、地域をきれいに、そして安全に保っていることのおかげだと気づきました。

地域に関心をもち、地域をきれいに保つことは、ぼくにも協力することができます。地域の人と元気に挨拶をする、落ちているゴミを拾う、地域の活動に参加するなどです。地域の安全は、地域の人々の協力でなりたっていることを心に留めて、地域の人達が安心して、安全に暮らせるようにぼく自身も協力していきたいと思っています。